

# 神戸っ子交歓

神戸二中同窓生

森崎了三

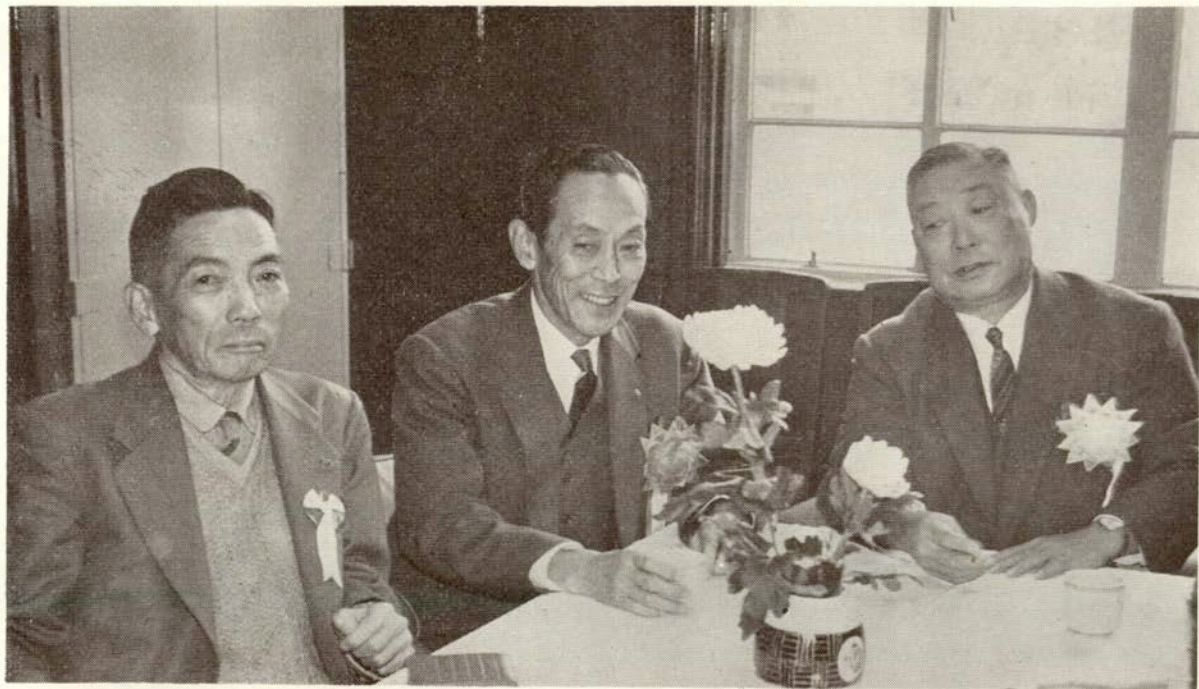
(兵庫県トラック協会々長 2回生)

古川虎夫

(兵庫県調停協会々長 2回生)

金井元彦

(兵庫県副知事 10回生)



(写真左より古川、金井、森崎各氏一兵庫高校応接室にて)

生っ粋の「神戸っ子」といわれる名士には、神戸の名門校「神戸二中」の出身の方が多いのは驚ろく程です。

現在の兵庫高校の前身が神戸二中なのです。兵庫県トラック協会々長の森崎了三氏、兵庫県調停協会々長の古川虎夫氏、兵庫県副知事の金井元彦氏の三人もそう。森崎氏と古川氏はともに二回生、金井氏は十回生。

さる十一月四日に行なわれた「県立兵庫高校増築校舎竣工式」にたまたま出席された三氏にお集り願ひ、懐しい中学生時代の思い出に花を咲かせていただきました。

### 男女共学がうらやましい／＼

森崎「僕らの通学していた頃とは、学校もそして学校の周辺の様子もすっかり変ったね」

金井「そうですね。あの頃は学校の前に湊川があり、周囲には山あり、タンポポあり……とても牧歌的な風景でした。建物もバラバラといった感じで、実に周囲の環境はよかったですね。

勉強するにも、運動するにもふさわしい環境でしたよ。それが時うつり、すっかり変わりましたね。まるで騒音の巷に近い環境になってしまった。

今の人たちはお気の毒ですよ」

古川「でも、今の学生諸君はうらやましいよ。

男女共学なんだからな（笑）」

森崎「昔は、その点厳格だったからね。そういえば君はあの頃、いわゆるナン派の不良組だったな（笑）」

古川「女学校の運動会といえ、グループをくんで乗り込んだものですよ。うまくいけば翌日学校では英雄扱いにされてね。いわば女学校に乗り込む特攻隊みたいなものだよ（笑）」

（戦後の男女共学を「うらやましい」とおっしゃりかつては女学校のり込み特攻隊のリーダー？ともいうべき古川氏が、現在、兵庫県調停協会の会長として面倒な男女問題を粹にさばいてらっしゃるという

から世の中は楽しい）

金井「森崎さんは、たしか二中の野球部の草分けでしよう。ポジションはどこでした？」

森崎「センターをやってましたよ。僕は君と違って勉強はあまりしなかったよ。大いにあばれまわったくちだよ。昼休みによく長田のウイロを買いにいったりしたね」

古川「ごんた坊主のくちかな。でも森崎君は昔は紅顔の美少年ってとこだったな（笑）」

もつとも昔も君は、よく肥ってかわいかったぜ」

森崎「金井君は、学校の成績は優秀だったけど、君も僕もその点はあかな（笑）」

大体、二中出身は役人畑ではあまり出世せんのだがやはり金井君のような秀才は例外だね」

古川「金井君は、何かクラブに入ってた？」

金井「剣道部に入りましたよ」

（森崎・古川両氏は、同期のサクラとあって、さすがに遠慮のない愉快な会話のやりとりです。両氏より八期あとの金井氏は、そんなお二人の話しぶりを始終にこやかに聞いてらっしゃいます。

森崎氏のざつくばらんな野人型？、古川氏の軽妙さそして金井氏のもの静かな秀才タイプ……この三人三様の性格がうかがえるような会話です）

### 懐かしいユーカリの木

古川「僕たちは学生兼土方だったね。運動場を作るのに授業がすむと土をせつせと運ばされたものだよ。学校の裏山をチギっては運び、チギっては運びだったな（笑）」

森崎「湊川からも砂を運んだな。その運動場にはいま校舎が建ってしまったるが……」

金井「先輩が植えてくれた二中名物のユーカリも、もう二本だけになりましたね。」



昔は運動場の周囲にずーと植えられてましたが……」

森崎「ユーカリの木は、一回生が植えたんですよ。残った二本はぜひ分大くなりましたね。」

やはり昔の思い出といえ、このユーカリなど眺めると懐しいな」

（現在本校舎の左右に二本、天を摩するがごとく、そそり立つ名木ユーカリは、自由と青春の若さに満ちた兵高健児の誇りであり、その質素剛健な風格は同校の象徴として生徒たちから愛されている）

金井「昔の思い出といえ、鉄拳制裁」というこわいものがありましたね」

古川「そう、上級生に敬礼しなかったというつまらん理由でも、運動場の真ん中につれ出され、ポカリとやられたもんですよ」

森崎「だからみんな上級生のいうことは、ようききよったな（笑）」

また、あの頃は、今と違って先生も若い人ばかりだった。だから教練はもとより、何もかもがスパルタ式というより、軍隊式やったな」

金井「運動場で立食、お茶もなかったですね」

古川「その頃にくらべると、やっぱり今の学生は恵まれすぎてよ」

森崎「第一、男女共学が、うらやましいんだろ（笑）」

## 二中カラーは「ガラツパチ」

金井「神戸一中がスマートなのにくらべて、神戸二中のカラーは「ガラツパチ」っていう感じですね。」

もともと一中は、どちらかといえばサラリーマンの子弟が多かったせいもあるんでしょうが……。二中の場合は商人の子弟が多いですね」

森崎「そういえば、中小商工業の子供が多いな。それだけに卒業しても地元、神戸で住みつく者がほとんどで、いわゆる根っからの「神戸っ子」として地元の

ために活躍している連中が多いよ」

（本誌にすでに登場願った滝川勝二（兵庫トヨタ自動車KK社長）直木太一郎（神港倉庫KK取締役社長）小磯良平（画家）の各氏をはじめ詩人の竹中郁氏など二中出身の活躍ぶりはたいしたものですよ）

金井「全国的には、一中の方が多いでしょうね。これはサラリーマンの子弟が多く転勤ということもあるから自然、全国的にちらばるということになったんでしょうね」

古川「でもね、二中の「ガラツパチ」も戦後の男女共学で、男の生徒はうんとやさしくなったそうだよ」

森崎「まあ、二中カラーは強いていえば、ざつくばらんにものがいえる。飾らない人間が多いということになるんじゃないかな」

古川「僕らをみてもらっても、その通りだよ（笑）」

（文責・五十嵐恭子）

## 県立兵庫高校の横顔

今年で五十四年という古い歴史を誇る同校は、人生に例えるなら、もともと円熟した壮年期に達したといえよう。前身「神戸二中」の創立は遠く明治三十九年七月、神撫山を北に、湊川を南にひかえたこの地をいつのころからか人は「武陽ヶ原」と呼んでいる。新しく兵庫高校となったのは昭和二十三年県四高女と合併してからである。校風は「質素剛健、自重自治」、文化、運動両面におけるクラブ活動もなかなか盛ん。なかでもラクビー部の活躍にはめざましいものがある。



あなたの装いのアクセント

オシャレをたのしむ帽子の店

**マキシン**

トア・ロード TEL③6711~3



クリスマスの装いに

気品をそえる真珠



**北村パール**

北村真珠株式會社

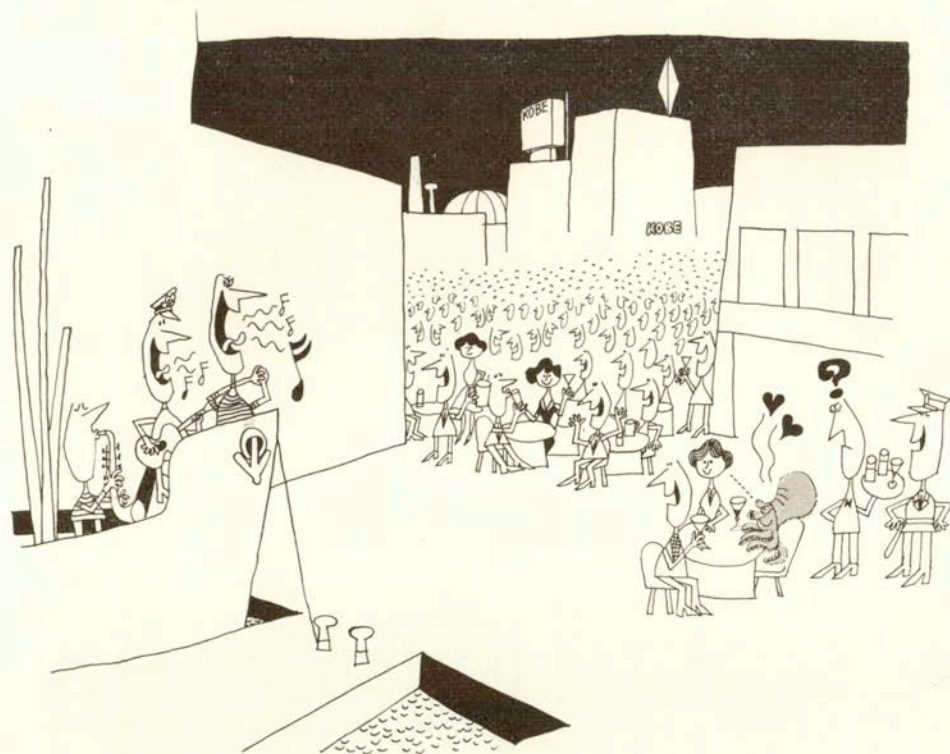
神戸／元町2・東京／スキヤ橋センター

TEL③0072 (571) 8032

神戸だからえがく夢 NO. 1

# 街のまん中のパーティー

藤 本 義 一  
え・佐々木侃司



ボリス「タコだろうと何だろうと、コーベの空気を吸ってるものは飲む権利はあるさ」  
給仕「いや、このタコは適当にイロメをつかってやがるんでね。タコまで程度を高くしやがる…」



「みなと祭」が済んで翌日の各新聞にはいずれもたくさん写真が掲載されたが、そのなかで私がいちばん印象に残ったのは、大丸前のあの広い道路をいっぱい埋めつくして人の波が続いていたことであつた。もちろん自動車は一台もない。すべては人、そのほかには建物があつただけ——懐古行列や花電車には一向に感動しない私も、この一枚の写真には心を動かされたのである。人たちはやはりお祭りをたのしんでいる。そう思うと、私はこういたくなつたものだ。「当局はもっと勉強をしてもらいたいネ」

ところで、この大丸前の自動車道路だが、電車軌道を取り去ってみると見違えるようにスマートになった。あの写真を見つめていてフイと頭に浮かんだのは、あそこでトアロ・ードから鯉川筋までを数時間封鎖して、パーティをやつてみたいということである。

私はみんなで集まって騒ぐのが好きで、そうした世話もしてきたが、いつの場合もおなじアイデアは二度と使わなかつた。「今度はどんなことをやるだろうか？」来る人はこの興味で集まつたのである。若手芸術家一五〇人のパーティー「パンの会」が、その最たるものであつたが、これは五く六人の世話好きがそろつていたので、

みんなで力を合わせて底抜け騒ぎだつた。△ダシもの▽ひとつにしても前回のアイデアは再び使わなかつたし、場所にしてからが「前回ホールだつたから、今度は屋上をしよう」といった具合。しばらくお休みしていたので、またジツとしておれない五く六人が相談をはじめた。「今度は野外でやるうじやないか」というのである。しかも私たちは、それを神戸のド真ん中でやるうというデカい希望をもっている。そこでまず第一に眼をつけたのが神戸大丸のあの前なのだ。

あそこ一杯に四角いテーブルを散らして四人ずつ掛けて、まん中に舞台をつくつて廻りから見ると、あそこなら、朝日会館のほうから出演者がオープン・カーに乗つてきて、車をとめたら座席で立つて歌つて、済んだらそのままエンジンかけて退場ということもできるし、大丸の向かいの商店で、二階から身を乗り出して歌うこともできる。途中でみんな席を立つてダンスもすればよい。道路いっぱいタンゴを踊るなんてステキじゃないか。こうして書いてるだけでも私の胸は踊ってくる。いかにも神戸らしいのしきた。

街中でやるパーティーは、ほかにも場所はいくつでもある。元町三丁目のマサヤ、ニッケあたりで

同様に、二〇〇人くらいの席をつくつてやつてみたいナと思うし（この場合は波型模様の歩道はそのまま歩道として使う……）海岸通三丁目（中突堤前）の噴水を丸く囲んだ舗道の上でもやつてみたい（ここは五〇人くらいならできるかな？）理想的なのは神戸市役所前。居留地の静かな通里も趣きはあがるが、暗いのが欠点。早く大丸から海までの通りのように螢光灯をつけてもらえないかしら。それからメリケン波止場またはポート・ビル西側のあき地。ここなら目の前に可愛い船がいっぱい。これらがみんな道路だよ占有許可がとれないときは、元町一丁目本通り山側のあき地、殺風景だが料理のしようもあろう。

そんな話を仲間でいっぱなししていたら、いつの間にやらウイスキーの角瓶がカラになり、電車はトックになくなつていく。（いや心配はない。私以外はみんな自分の車で来ているし、ここは私の家なんだ）そして私はこんな話をたのしむために、また神戸へ帰ってきた。警察署長さん、来年あたかくなつたら、私たちに夜の四く五時間、道路を貸してくださいませんか。映画でタンノウした。「パリ祭」のあのたのしさを、私たちに味わわせてください。もちろんあなたをご招待して、デッカい花束を贈ります。

ずいそう

# 須磨デー

永井 叔

一九六一年十月十一日の夕暮近い頃であった。托行から帰って、やれやれ、これから、買ってきたばかりの好物(温い芋のテンプラ)でも食べようかと思ひながら、私宅の門辺近くへ来ると、あら縄で大きな木箱を自転車の上しろへしぱりつけた一見ルンペン風のやせこけた初老人が、私を待ちかまえていた。

泥にまみれた破れ靴が、数日前の二十四号台風(雨)を、いのちがけでかきわけて来たことを物語っているようだった。

もとより初対面の彼Kさんは、去年、須磨から私の旅先き下関へ二、三度か手紙を出したことで、十八号や二十四号台風の荒れ狂う中をベジャンコになりながら鳥取、新潟、青森、岩手、宮城をオンボロ自転車で访い、会津若松も経て、今日、東京へ来たが、東京には誰一人として知人がない。東京ではおまわりさんの目も厳しいし一夜お泊め願いたい。あなたの住所はあらかじめ神戸新聞で知っていた、というのである。

私は漂白者―流れ者の辛惨は充分に知っているので(お互いさまなので)文句なしにお泊り願うことにし、まず、一緒に近所の風呂へ行き相共に背を流しあった。(―私の方がセンチだったが。)所有者のない安カミソリを拾って手入れたおじさんの顔は、いくらか人間らしくなったが、どう見ても、あのお上品な景勝地須磨の浦からの珍客とは思えなかった。

しかし、不思議と、眼の澄んだおじさんだったので、いつかみたいに、ありったけの浄財を知らぬ間に失敬される心配はサラサラあるまいと思ひこんだ。

銭湯から帰りに(私もひとり者なので)看板価六十円也の牛井でも馳走しようと食堂へはいりかけたら、いきなり私をひきとめて、もつと安い「きそば」にしましうや、という。

そこで、少し先の藪にはいり、なみそばよりは五円高いたぬきにして夕食(歓迎会)をすませた。

寝物語によると、かつては、台湾、沖縄でも暮し、九州、四国、東北、北海道へも旅をしたが、いずれ、世界を私(叔)と一緒に歩いてみたいと、真剣にいう。

須磨には応接間もあるかなり大きなお家(お邸かも知れないぞ)があるが、姉一族が留守番をしてくれている。私の得意は手風琴と太鼓(アコーディオンとドラムとはいわなかった。)それに英会話位



なものです、とつけ加えた。

「私は、関西学院中学を出ただけですが、弟は音楽学校も出て芦屋に在住、放送局にも関係し、大学などで音楽教授をしている。K先生といえは知る人ぞ知らん」とも申された。尙「その弟に悪いので、まあ、私の名は、ひっそりと畳み、新聞関係がタネを取りに来たら、いつも大いそぎで逃げ出すことにしています」そう仰言った時のあの目の一層に美しかったこと―瞑目していても、そのホホ笑ましい美しさが見えたのだ。

あくる十二日の朝は、兩人とも早起きして、芋少々と生野菜、煮干し、みかん一個づつ、それに番茶で送別の宴を張った。銭別におくった新品タオルとじばんを極力拒んで彼は小田原方面へ風の如く消失してしまった。

こども相手に鉛や折紙や鉛筆などを売りながらのほそぼそとした旅では露上草間より他宿り場はない。

うまく、辻堂や橋下が見つかれば好いが。雨よけのビニールも懐中電灯も紛失して持っていないし、秋冷はいよいよ深まってゆくばかりだし……。

行き行きて

たおれ伏すとも萩の原（曾良）

見送りながら、私の目にはかすかな涙が光った。

彼が去ったあと、私の身のまわりは、いつともちがった清掃整頓で、さっぱりしていた。

表玄関、下駄箱の上、便所、肩籠の底、ながしの上等々がみんな光って見えた。

私はとつさに、長谷川伸作の戯曲『連枝』中に出てくる寺（の草ひき）男に化けたお地藏さんを思い起した。「はてな、あのルンペンさんは、実は神様か仏様の化身ではなかったのだろうか」

こんな気がしたのであった。

彼の居なくなつたあと、来年の夏は、楽器、八ミリ映写機、ギニョール掃木他諸慰問奉仕具を満載する四輪の手押車（四千円程かか



るが)を用意するから、裏日本と一緒に歩きましようや、といった彼の言葉を真剣に考えなおしてみた。

峠も嵐もなんのそのノ私は、本当にその夢のおとき車が、私—老骨の棺桶を運ぶようになるかも知れぬが(彼氏には御苦労かけてすまないが)喜んで同行したくなっている。

x

別れた日—十二日の夕は二葉あき子さんと二人で、日本の可愛いカーネギホールなる銀座の山葉ホールで(何のまちがいか)大滝祥作曲、杉山須磨子(箱根の人?消息不明)作詩「母の歌」を、私のマンドリン伴奏で合唱したが、この好き日の夜更、帰ってみたら、月刊誌「神戸っ子」の五十嵐恭子さんからの郵便よりで、歌人磯江朝子女史がやはり須磨子にお住いであることを知った—妙。その美しい須磨の歌人のことばを神戸っ子から抜いてこの「須磨デー」の結びにさせていただこう。

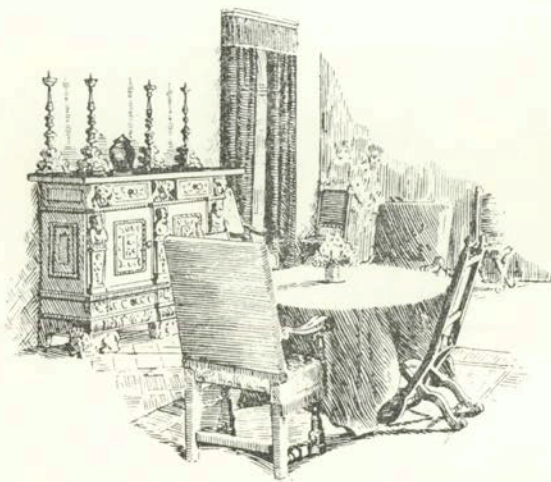
「夢をもつということは、向上することであり、夢の実現への努力は、人生に働き甲斐を見出すことでもある。

その夢が適度のものであれば崩れても崩れても、夢を失わないようにすること、そんな人であることによって夢は実を結ぶものだ。その夢という文字を「幸」と書き換えてもいい。幸とは心の持ち方一つで、誰れにでも来るものであることを私は信じている。」

(あちこちの風光美をカラーではなく、単なる白黒でうつし撮った澄んだ眼よ。松山でたたき靴やをしている親友児島凡平(かつて二頭の山羊をひきひき、その乳をのみ、山羊にはさまれて野宿しながら長旅をした詩画人)にととても良く似たおじさんだなあとと思いつつ、フト、我が陋屋へかけさした須磨の風光をもあわせ偲びながら。

— (一九六一年十月十五日記・大空詩人)

家具・室内裝飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ③ 5 5 2 0  
③ 1 2 9 0

呉井陳藏

みよーや

神戸大丸前  
電話 神戶(3)三三八九番  
大阪店 阪神百貨店三階  
電話 大阪(36)五五八  
姫路店 やまよし百貨店  
電話 姫路四〇〇〇

自由美術会員になった

吉見敏治君



吉見敏治君が今秋の自由美術展で同会の会員に推された。本職？は阪神電鉄の改札係さん。非常におとなしい人で、絵と人物とがちょっと一致しない感じがせぬでもない。それほどに、絵はたくましく激しく熱っぽい。しかも、何でも彼でも手当たり次第に画材にするのではなく、自分の気に入った対象だけを選んで、それとじっくりと対決している。たとえば線路―二本の鉄路と枕木をあらゆる角度からとり上げたり、扉―倉庫のがんじょうないろいろな扉を入念に追求したり、といった風なのである。こんな点から、また仕上がった作品から見て、本来、吉見君は必ずしも器用な人ではなさそうだし、しかし、その感受性の特異さと凝集力は人一倍鋭く強いよう

ある。吉見君は美校など、いわゆる画家としての正規のコースを通っていない。絵の具のとき方から独習でこの世界にはいった人だ。従って、努力家であることはいうまでもなろう。自由美術の方へはすでに五回ほど入選しているが、ここ二、三年、地元神戸で活発に個展を行なっていて、その精力的な勉強ぶりを注目されていた。神戸美術館が去年から行なっている「われらの新人展」に自由美術の神戸支部？から去年、ことしと連続推薦され、二度とも受賞した。実力家でもある。自分の生活と密着した世界から画材を選び、それに自分の作画精心を托する同君には、仕事を離れて絵に専心するよりは、余計に画業にプラスしように思える。がんばってほしいものだ。三十歳、独身。(伊藤誠)

## 花時計

アン・

バランス

松井高男



オペラ・ファンをわかせたパリのオベラ座、イタリア歌劇団の公演も終わり、テバルディはつぎの出演地コペンハーゲンへ、飛行機ぎらいのデル・モナコは四日夕刻神戸出航のドイツ船でイタリアへ帰っていった。イタリア歌劇団の来日も三度目ともなれば、日本でも大分なじみの人がふえたことだろう。日本のオペラ界がこれらをどう受け止めたかは知らないが、少くともフアンは耳目は飛躍的に肥えたに違いない。むしろこの豪華さ、歌手のスケールの大きさと日本のそれを比較するわけにはいかないが、外形だけをいちはやくまねるようなイージーな吸収の仕方だけはしてほしくない。一方、聴衆の方も何が何だかわからなくせに詰めかけた―などと著名な評論家が書いていたが、いまや世

界のなかに日本があるのではなく日本のなかに世界があるのだ。たとえヤジ馬的であるにしろ世界の一品品に触れておくのはいいことだ。少くとも薄っぺらな日本文化の底辺に、厚みを加えていくきっかけともなれば幸いである。さらに世界的な視野のなかで日本をとらえ直すことができるようになればいい。そういい、ことある、今後オペラ界への風当たりはひとしお強くなるが、そうした幅広い愛好者層の水準の向上こそ日本のオペラ界の向上をうながし支えるものなのである。収入が追いつかないのに消費ブームだけが先走り、道路が整備されないうちに自動車が増えるような、ひずみの多い日本だが、オペラ界と聴衆のバランスのくずれなほど大罪の軽い方であろう。(神戸新聞学芸部長)





ネクタイの  
**元町バザー**  
 神戸 × 元町

⑤ 柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 ④ 0693

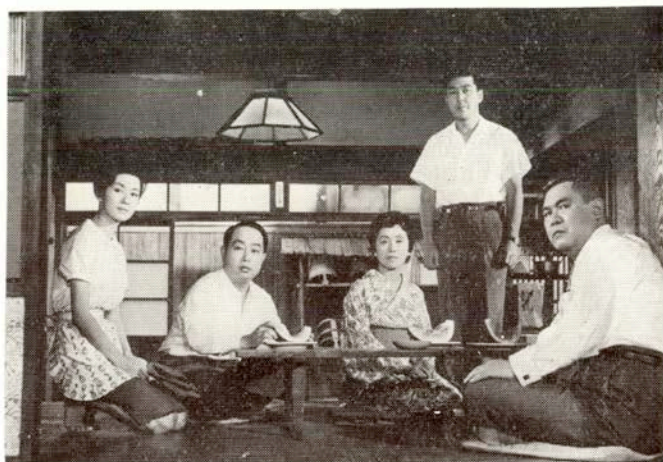
大阪・高麗橋二丁目 ② 2106



映画戯評

# 「小早川家の秋」

名村喜久江



(写真左より、司葉子、加東大助、杉村春子、小林桂樹ら)

美術家とは申しまでも、ナニワブシやら漫才まで参加なさいます当節ですから、たとえこの映画のタイトルや広告に「三十六年度芸術祭参加作品」だの「優秀映画鑑賞会推薦」あるいは「日本映画界の至宝・小津安二郎監督の芸術大作」「十六大スター競演の格調高い名作」などとコケオドシの惹句が並んでおられます、ゆめゆめ羽織、ハカマの正装でお出かけるに品性はさきおとなたちをクスクス、ニヤニヤさせる娯楽的要素と、スクスクを口ずさむお若い衆にも「人生てわかんないもんよ、死んじやえばソレツキリき」といった無常観を吹きこむ色つき

の映画商品でございますから。終幕主人公の万兵衛さん(中村鴈治郎)が火葬され、その煙が小早川家の人々の目や、観客たちの涙腺にしみわたる頃、ヤタラと登場するカラズの名演技(?)とともに「生者必滅、会者定離、色即是空の世の中さ」なんて感傷が七十ミリのスペクタクル仏教劇「釈迦」以上の迫真力で、そくそくとわたくしたちのハートにしみわたる次第でございます。それもそのはず、長年カワドウの世界でパンをかき、芸術院賞、紫綬褒章、芸術選奨などキラメク男の勲章を頂いたアルチザンが、チヨイ役にまでスターを使つたゼイタクな作品でございますもの。おハナ

シ自体はわりかし簡単。関西の造り酒屋のオヤ旦那・万兵衛さんは家業を長女夫婦(新珠三千代、小林桂樹)にゆずつたあと、時には長男の末亡人(原節子)や末娘(司葉子)の結婚話にハッパをかけながら、昔の女(浪速千栄子)とリバイバル浮気をしてやがて競輪の帰り途その家でポツクリ。そして背骨を失つた小早川家は時の流れに押されて大企業に併合されてゆくといつたごくごく日本的なホームドラマです。さすがは名匠凝りたくった技巧や手法が深く静かに潜航しているため、二十代から六十代まで幅広く服用でき、しかも連用して副作用のない保健薬に仕上っております。名匠と呼ばれる人の作品にうっかりケチもつけようものなら、素人のアサハカサとそしれますので、この映画へこの賞賛や意義づけは玄人衆にお任せ致しまして、ごく野次馬向きのガイドをあいつとめましよう。チューリップ型(ハナの下が長い)紳士は絶世の美女(原節子司葉子)二人をしみじみと堪能なさいます。片やいささかたびれかけた美貌ですが、目鼻立ちのリッパなお道具立てに、終始モナ・リザ的微笑のサービスを忘れず、片や清純、可憐、明朗を絵にかいたような現代娘の対照。ツボを心得た小津監督はこの二人の表情をたっぷり展示してみせます。マザークンプレックス型男性には新珠三千代が推奨株です。キリキリシヤンとおしした働きます。ちよびり皮肉やお節介も致しますが、そのかわり薄っぺらい月給袋でも、決して栄養失調にはさせないヤリクリ巧者のタイプです。男優は鴈治郎がウマすぎて達者な連中すべて影がウスレてみえます。まことにザンネン至極でございます。

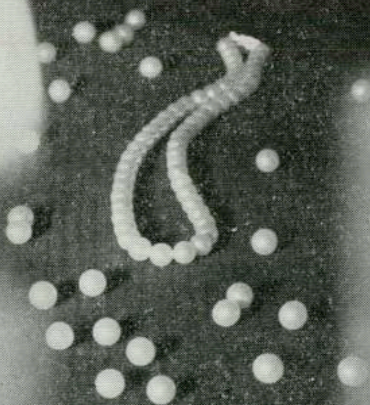
(大阪読売新聞記者)



# 贈物の主役

クリスマスに  
お歳暮に  
タサキの真珠が  
アナタの  
あたたかい心を  
お運びします

クリスマスセール  
十一月十五日より



神戸・三宮駅前 新聞会館内

**田崎真珠店**

TEL (22) 5646



毛皮の店

**ウエダ**

元町2丁目・TEL ③0686



音楽のシーズンを飾る

## 驚異のステレオ

コンサートホールで聞く、あの感激の音の響きを、あなたのお部屋で再現できます。大ホールで聞く音——そのままをよみがえらせるリバーブサウンド・システム（残響装置）とソロ（独奏）から交響楽まで——演奏や曲のムードに合わせ、ツマミ一つで思いのままに音を広げたり、狭めたりできるスプレッドコントロールのすばらしさ。初冬の宵を、完べきのステレオ演奏でお楽しみください。

### ターボフォニック ステレオ

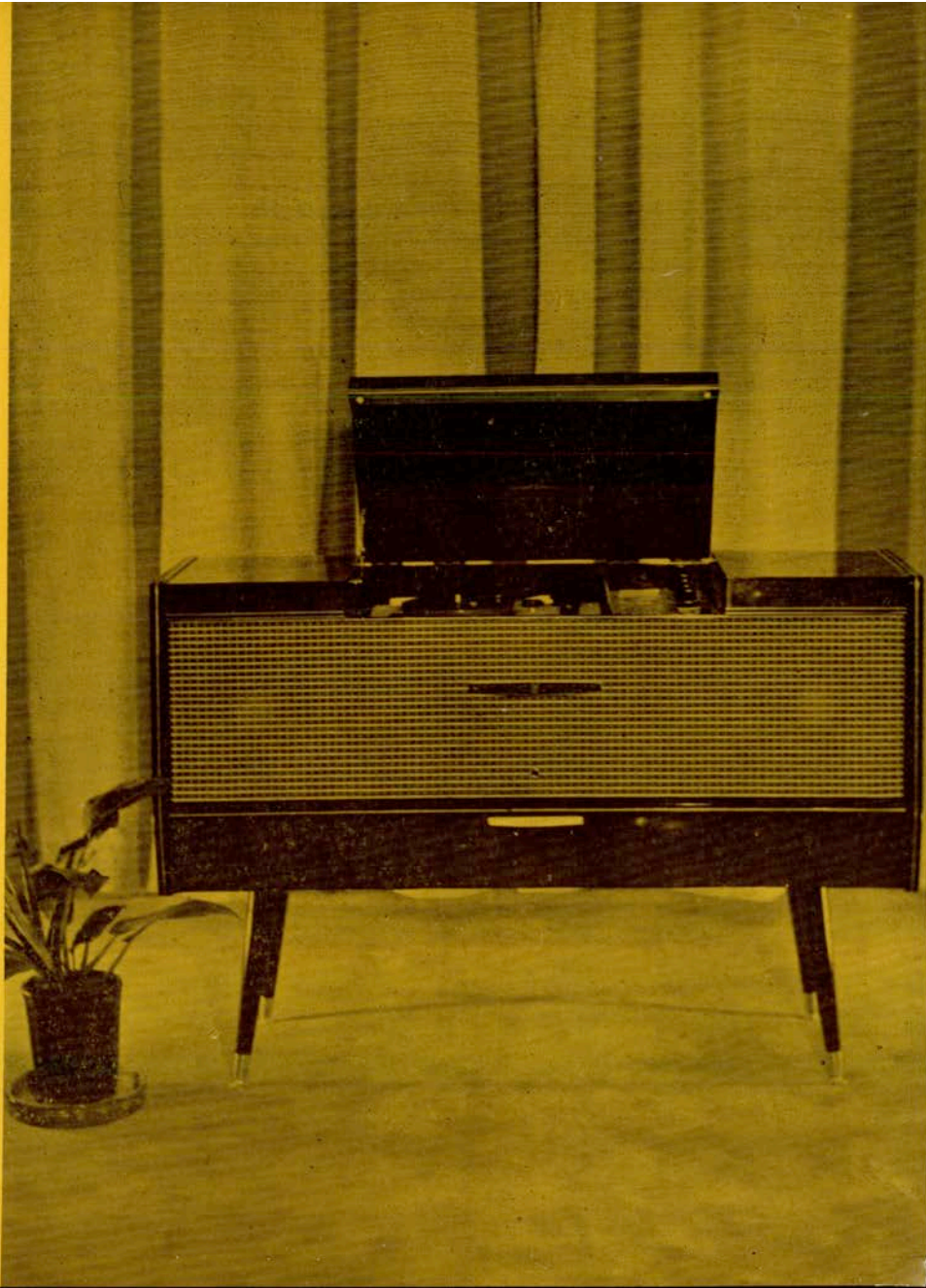
（2点ひとそろい）

H E-4 9

正 価 55,800円

- ステレオラジオ 50,800円
- プレイヤーコット 5,000円

※くわしいことをお知りになりたい方は、お近くのナショナル運搬店へお尋ねください。



## ご挨拶

錦秋十一月

神戸のメインストリートに  
ナショナルの電化製品でお  
なじみの松下電器が営業所  
を新築、ナショナル電化セ  
ンターとしておめみえしま  
した。

明るい、ゆたかなくらしの  
ための電化製品を展示して  
皆さまのお越しをお待ちし  
ています。

おさそいあわせお越しいた  
だき、気軽にご利用下さい

松下電器産業株式会社  
神戸営業所

神戸市生田区京町78番地  
(市電三宮町1丁目下車浜側50M)  
電話 (代表) 2371

所長 山崎国雄

